

令和6年度 IR 推進センター 事業実施報告

1) 概要

IR 推進センター (Institutional Research Center) は、大学の教育研究に関する目標・事業計画の進捗状況の評価に必要なデータ及び分析結果の提供を行い、全学的な教育研究活動における適切な PDCA の推進を支援することを目的に、令和2年4月に設置されました。学内の各部署に蓄積されている入学前～卒後に至る多様なデータを統合・分析し、学生募集、教育研究活動、卒後支援に係る効果的なエンrollment・マネジメント (入試～卒後までを一貫してサポートする総合的な学生支援策) に関する情報を管理し、各学部等からの分析依頼に対して結果をフィードバックするとともに、収集したデータに基づき、各学部等に対して改善施策の提案を行うのを主な業務としています。

2) 組織

- ・センター長 (副学長 (教育研究担当)) 1名
- ・副センター長 (准教授) 1名
- ・担当教員 (助教) 1名
- ・事務担当 2名
- ・補助職員 1名

3) 沿革

令和2年4月 IR 推進センター設置

上田陽一副学長がセンター長となる。前田理恵子が事務担当となる。

令和3年1月 井上彰臣が副センター長 (准教授) となる。井上由貴子が助教となる。
大野麻樹子が補助職員となる。

令和4年4月 高見直也が事務担当となり、事務担当が2名体制となる。

令和5年4月 上田陽一センター長が学長となり、堀江正知副学長がセンター長となる。前田理恵子が併任解除となり、吉永 剛、鈴木 徹、西村 宏、加藤 晃子、中村由美、佐伯千鶴子が事務担当となる (事務担当が7名体制となる)。大野麻樹子が退職し、河野 梓が補助職員となる。

令和5年7月 中村由美が退職し、山崎小由美が事務担当となる。

令和6年4月 吉永 剛、西村 宏、加藤晃子、山崎小由美、佐伯千鶴子が併任解除となり、事務担当が2名体制となる。

4) スタッフ（令和6年4月現在）

氏名	職名
堀江正知	副学長・センター長・産業生態科学研究所 産業保健管理学研究室 教授
井上彰臣	副センター長・准教授（専任）
井上由貴子	助教（専任）
高見直也	事務担当・大学事務部 次長
鈴木 徹	事務担当・大学事務部 大学管理課長代理
河野 梓	補助職員（専任）

5) 令和6年度の活動内容

- ・ IR 推進センター運営会議の開催（全4回）
- ・ 年次報告（医学部 医学科、産業保健学部 看護学科、産業保健学部 産業衛生科学科）の作成
- ・ 大規模研究費獲得プロジェクトワーキングチームへの参画
- ・ 産業医科大学ニュース 707号（令和6年8月号）への寄稿（受賞報告）
- ・ 第56回日本医学教育学会大会での活動報告
- ・ 医学部卒業生 初期臨床研修先「コンピテンス到達度評価アンケート」（卒後1年目の初期臨床研修医の指導医による客観評価）の実施
- ・ 医学部・産業保健学部「学生生活に関するアンケート」の実施協力
- ・ 医学部1～6年次生「コンピテンス到達度自己評価アンケート」の実施
- ・ 医学部4年次生・6年次生「カリキュラム評価アンケート」の実施

<IR 推進センター運営会議の議事概要>

回数	開催日	主な議題
第1回	令和6年4月16日	IR 推進センター運営会議 構成員名簿（更新案） 令和5年度 予算実績報告（案） 第4次中期目標・中期計画の進捗状況（令和4～5年度） 令和5年度 事業実施報告（案） 令和4年度 年次報告（医学部、看護学科、産業衛生科学科） 学生のメンタルヘルス・周囲のサポート状況の評価指標（案） 産業医科大学アセスメントプラン（改定案）
第2回	令和6年7月9日	医学部卒業生 初期臨床研修先「コンピテンス到達度評価アンケート」の実施方法 学生のメンタルヘルス・周囲のサポート状況の評価指標（案） 教職員向け FD・SD の一括管理の方法

第3回	令和6年10月21日	医学部1～6年次生「コンピテンシー到達度自己評価アンケート」の実施方法 医学部4年次生・6年次生「カリキュラム評価アンケート」の実施方法
第4回	令和7年1月23日	令和7年度 事業実施計画・予算実施計画（案）

6) 令和6年度の活動実績

6-1. 分析支援実績（申請番号および分析支援内容：カッコ内は対象学部）

- R6-001 卒後約10年時点における産業医としての就業状況（医）
- R6-002 コンピテンシー到達度評価とカリキュラム評価の集計（令和5年度分）（産保）
- R6-003 令和6年度一般選抜における出願パターン別の得点分布（医）
- R6-004 産業医学卒後修練課程の前期課程在籍者に対する情報提供事業の実施と辞職との関連（医）
- R6-005 コロナ禍前後における学生のメンタルヘルスの状況・支援状況の推移（医）
- R6-006 コンピテンシー到達度評価とカリキュラム評価の集計（令和6年度分）（産保）

6-2. 企画支援実績

- ① 医学部「コンピテンシー到達度の客観評価」（教員評価）の制度設計・実施支援（医学教育改革推進センターとの連携）

7) 教育業績（専任教員）

< 卒前教育 >

医学部：心理学

産業保健学部：メンタルヘルス概論

< 卒後教育 >

医学部：産業医学総合実習（4. メンタルヘルス）

産業医学基本講座（本学開催）（健康管理実習）

産業医学基本講座（東京開催）（メンタルヘルス対策実習）

大学院：産業衛生学研究概論

8) 研究業績（専任教員）

- ・ Eguchi H, Inoue A, Mafune K, Tsuji M, Tateishi S, Ikegami K, Nagata T, Matsugaki R, Fujino Y. Effects of the need for support from the workplace and resilience on psychological distress in Japanese employees: a 1-year prospective study. *J Occup Environ Med* 2024; 66(5): 359–365.（米国職業環境医学会（ACOEM）による医師生涯教育（CME）の課題論文に選定）
- ・ Iida M, Sakuraya A, Imamura K, Asaoka H, Arima H, Ando E, Inoue A, Inoue R,

- Iwanaga M, Eguchi H, Otsuka Y, Kobayashi Y, Komase Y, Kuribayashi K, Sasaki N, Tsuno K, Hino A, Watanabe K, Ebara T, Shimazu A, Kawakami N, Tsutsumi A. Effects of participatory organizational interventions on mental health and work performance: a protocol for systematic review and meta-analysis. *J Occup Health* 2024; 66(1): uiae028.
- Odagami K, Nagata T, Eguchi H, Inoue A, Mafune K, Mori K. Reliability and validity of the Japanese version of the Survey of Perceived Organizational Support. *J Occup Health* 2024; 66(1): uiae034.
 - Ichikura K, Watanabe K, Moriya R, Chiba H, Inoue A, Arai Y, Shimazu A, Fukase Y, Tagaya H, Tsutsumi A. Online vs. face-to-face interactive communication education using video materials among healthcare college students: a pilot non-randomized controlled study. *BMC Med Educ* 2024; 24(1): 746.
 - Sasaki N, Imamura K, Watanabe K, Hidaka Y, Sakuraya A, Ando E, Eguchi H, Inoue A, Tsuno K, Komase Y, Iida M, Otsuka Y, Iwanaga M, Kobayashi Y, Inoue R, Shimazu A, Tsutsumi A, Kawakami N. Association of psychosocial factors at work with fertility and menstrual disorders: a systematic review. *Jpn J Nurs Sci* 2025; 22(1): e12624.
 - 井上彰臣. 職の不安定性と労働者のメンタルヘルス：仕事の資源の緩衝効果. *BIO Clinica* 2025; 40(1): 86 (1384)–89 (1387).
 - 田原裕之, 後藤剛, 近藤智, 吉田麻美, 井上彰臣, 杉村直哉, 武井勇樹, 田村三太, 太田由紀, 林幹浩, 松田由美江, 湯沢由美, 田島佐登史. 第 31 回日本産業精神保健学会におけるワールドカフェ企画実施報告. *産業精神保健* 2025; 33(1): 68–72.